

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書（前期・後期）

平成27年7月13日（月）作成

校長 清水 千春

記述者 職名（教頭） 興石 信

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- （１）豊かな人間性の育成
- （２）確かな学力を育む指導と評価
- （３）体力向上と健康安全意識の向上
- （４）愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- （５）安全安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

分析・作成にあたって

- ・分析にあたっては、以下の考え方を基本としてまとめていくこととした。
（教職員アンケートについて）
- ・回答群A（そう思う）とB（ややそう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、回答率が90%を上回るものは「達成ができている」ものとして評価する。
- ・「肯定的な回答」が80%を下回る項目は、本校の課題とする。
- ・市全体と比べて5ポイント以上の差がある項目は、本校の特徴として捉えるものとする。
- ・前年度同期と比べて5ポイント以上差がある項目は、本年度の特徴として捉えるものとする。
- ・本校の独自の集計方法として、A：4点、B：3点、C：2点、D：1点として回答を数値化し、各項目の平均値を算出した。
- （生徒アンケートについて）
- ・創甲斐教育推進大綱の目標となる指標となっている項目、教職員アンケートの内容と関連がある項目については、取り上げることとした。
- （評価書の構成について）
- ・全体を3部構成とし、1 全体の評価結果、2 項目ごとの評価結果、3 まとめ とした。

1 全体の評価結果

（教職員アンケート）から

- ・肯定的な回答（Aそう思う Bややそう思う の合計）がほぼ全項目（45項目中40項目）で90%を超え、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいる。
- ・本校のオリジナル項目としているⅢ⑨「習得した知識・技能を活用する授業」（94.8%）、Ⅴ⑨「小中連携を生かした教育活動」（100.0%）、Ⅵ③「読書に積極的に取り組むような指導」（96.0%）、Ⅵ④「学校行事に進んで取り組むような指導」（96.0%）、Ⅵ⑤「強化週間等を活かした指導」（100.0%）、Ⅵ⑥「生徒が発表活動に主体的に取り組むような指導」（96.0%）については全て、肯定的な回答が90%を超えている。

- ・肯定的な回答が80%を下回る項目は、Ⅲ④「個に配慮した授業」(78.2%)、Ⅲ⑥「教材・教具等を活用した授業」(77.3%)、Ⅴ①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」(58.4%)、Ⅴ②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」(75.0%)の4項目であった。

- ・肯定的な回答が、市全体と比べて5ポイント以上の差があった項目は、

- Ⅰ⑥「PDCAサイクルを生かした教育活動」+5.6ポイント(本校100% 市94.4%)
- Ⅱ⑤「職員会議への積極的に関わり」+9.8ポイント(本校96.0% 市86.2%)
- Ⅰ⑦「職場の福利厚生、健康管理についての配慮」-5.4ポイント(本校84.0% 市89.4%)
- Ⅱ①「学校施設の定期点検と処理・報告」-5.8ポイント(本校92.3% 市98.1%)
- Ⅲ④「個に配慮した授業」-12.5ポイント(本校78.2% 市90.7%)
- Ⅲ⑥「教材・教具等を活用した授業」-11.1ポイント(本校77.3% 市88.4%)
- Ⅴ①「地域人材や地域の教育力を生かす指導」-17.4ポイント(本校58.4% 市75.8%)
- Ⅴ②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会確保」-11.6ポイント(本校75.0% 市86.6%)

- ・肯定的な回答が、前年度に比べて5ポイント以上の差があった項目は、

- Ⅰ⑥「PDCAサイクルを生かした教育活動」+7.2ポイント(H27 100% H26 92.8%)
- Ⅱ②「危機管理マニュアルの理解」+10.3ポイント(H27 96.1% H26 85.8%)
- Ⅲ⑤「評価基準と評価方法を明確にした授業」+9.5ポイント(H27 100% H26 90.5%)
- Ⅲ⑦「質問や発言が出てくる授業」+9.6ポイント(H27 100% H26 90.4%)
- Ⅲ⑨「習得した知識・技能を活用する授業」+9.8ポイント(H27 94.8% H26 85.0%)
- Ⅴ③「教育活動についてのたよりやHPでの広報」+10.9ポイント(H27 96.0% H26 85.1%)
- Ⅴ④「PTA活動への主体的な参加」+8.3ポイント(H27 96.0% H2 87.7%)
- Ⅴ⑤「保護者のPTA活動への協力」+11.5ポイント(H27 100% H26 88.5%)
- Ⅴ⑥「地域・保護者による児童生徒の安全確保」+7.6ポイント(H27 100% H26 92.3%)
- Ⅴ⑦「保護者の学習指導や生活指導への協力」+11.6ポイント(H27 100% H26 88.4%)
- Ⅰ⑦「職場の福利厚生、健康管理についての配慮」-5.2ポイント(H27 84.0% H26 89.2%)
- Ⅲ④「個に配慮した授業」-17.4ポイント(H27 78.2% H26 95.6%)
- Ⅲ⑥「教材・教具等を活用した授業」-13.2ポイント(H27 77.3% H26 90.5%)
- Ⅴ②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」-9.0ポイント(H27 75.0% H26 84.0%)

(生徒用アンケート) から

- ・「創甲斐教育推進大綱」の目標となる指標として示された項目については、次の通りである。

<キャリア教育の推進>

- ・「将来の夢や希望を持っていますか」に肯定的な回答をした生徒の割合

(市) H31 目標値 80% (本校) 80.2% ※前年度比: +6.0ポイント、特にA率の増加顕著

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
20	「将来の夢や希望を持っていますか」 A しっかり持っている B 持っている C あまり持っていない D 持っていない	本校	52.6	27.6	13.4	6.5	80.2
		市	45.1	32.5	15.3	7.1	77.6
		1年	52.1	28.8	15.1	4.1	80.9
		2年	60.3	33.3	5.1	1.3	93.6
		3年	45.0	21.3	20.0	13.8	66.3
		H26 前期	42.4	31.8	16.1	9.8	74.2

＜豊かな心の育成＞

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」に肯定的な回答した生徒の割合

(市) H31 目標値 90% (本校) 93.6% ※前年度比：+1.5ポイント

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	「人が困っているときは、進んで助けていますか」 A 進んで助けている B 助けている C あまり助けていない D 助けていない	本校	40.8	52.8	6.0	0.4	93.6
		市	35.8	52.5	10.2	1.4	88.3
		1年	39.2	55.4	4.1	1.4	94.6
		2年	37.2	55.1	7.7	0.0	92.3
		3年	45.0	48.8	6.3	0.0	93.8
		H26 前期	37.8	54.3	6.7	1.2	92.1

- ・「平日、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしますか」に「30分以上」と回答した生徒の割合

(市) H31 目標値 40% (本校) 39.3% ※前年度比：-0.4ポイント

番号	質問内容		A率	B率	C率	DEF率	A+B+C
19	「平日、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書をしますか」 A 2時間以上 B 1時間以上 C 30分以上 D 10分以上、E 1分以上、F 全くしない ※D率は、D・E・Fの合計値	本校	4.3	8.2	26.8	60.7	39.3
		市	5.9	8.9	25.1	60.1	39.9
		1年	4.1	9.6	31.5	54.8	45.2
		2年	6.4	7.7	26.9	59.0	41.0
		3年	2.5	7.6	21.5	68.3	31.6
		H26 前期	6.3	10.6	22.8	60.3	39.7

- ・「学校のきまりや約束を守っていますか」に肯定的な回答をした生徒の割合

(市) H31 目標値 93% (本校) 98.8% ※前年度比：+1.9ポイント、A率の増加

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
21	「学校のきまりや約束を守っていますか」 A よく守っている B 守っている C あまり守っていない D 守っていない	本校	59.1	39.7	0.9	0.4	98.8
		市	46.5	48.0	4.5	1.0	94.5
		1年	61.6	38.4	0.0	0.0	100.0
		2年	60.3	38.5	1.3	0.0	98.8
		3年	56.3	41.3	1.3	1.3	97.6
		H26 前期	55.3	41.6	2.0	1.2	96.9

＜確かな学力の育成＞

- ・「国語の授業の内容はわかりますか」に肯定的な回答をした生徒の割合

(市) H31 目標値 88% (本校) 89.6% ※前年度比：-0.9ポイント

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	「国語の授業の内容はわかりますか」 A とてもわかる B わかる C あまりわからない D わからない	本校	36.2	53.4	9.1	1.3	89.6
		市	40.0	50.4	8.4	1.2	90.8
		1年	41.1	53.4	5.5	0.0	94.5
		2年	16.7	59.0	20.5	3.8	75.7
		3年	50.0	48.8	1.3	0.0	98.8
		H26 前期	42.7	47.8	7.9	1.6	90.5

- ・「数学の授業の内容はわかりますか」に肯定的な回答をした生徒の割合
(市) H31 目標値 81% (本校) 94.4% ※前年度比：+6.2ポイント、特にA率の増加顕著

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	「数学の授業の内容はわかりますか」 A とてもわかる B わかる C あまりわからない D わからない	本校	50.6	43.8	3.9	1.7	94.4
		市	41.8	43.8	11.5	2.9	85.6
		1年	64.9	33.8	1.4	0.0	98.7
		2年	42.3	47.4	5.1	5.1	89.7
		3年	45.0	50.0	5.0	0.0	95.0
		H26 前期	40.4	47.8	9.0	2.7	88.2

- ・「平日、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」に「いつもしている」「だいたいしている」と回答した生徒の割合
(市) H31 目標値 80% (本校) 71.6% ※前年度比：-2.5ポイント

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
13	「平日、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」 A いつもしている B だいたいしている C あまりしていない D していない ※目標時間 1年 70分、2年 80分、3年 90分	本校	27.0	44.6	19.3	9.0	71.6
		市	19.8	42.3	27.4	10.5	52.1
		1年	41.9	41.9	13.5	2.7	83.6
		2年	15.4	51.3	23.1	10.3	66.7
		3年	25.0	41.3	21.3	12.5	66.3
		H26 前期					

<健やかな体の育成>

- ・「朝ごはんを食べて登校していますか」に肯定的な回答をした生徒の割合
(市) H31 目標値 95% (本校) 93.5% ※前年度比：-2.5ポイント

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
17	「朝ごはんを食べて登校していますか」 A いつも食べている B だいたい食べている C あまり食べていない D 食べていない	本校	87.5	6.0	4.7	1.7	93.5
		市	83.9	10.7	3.8	1.6	94.6
		1年	90.5	6.8	2.7	0.0	97.3
		2年	92.3	5.1	1.3	1.3	97.4
		3年	81.0	5.1	10.1	3.8	86.1
		H26 前期	86.5	9.5	2.4	1.6	96.0

- ・「創甲斐教育推進大綱」の目標となる指標として示された項目については、達成目標年度は平成31年度であるが、現段階ですでに目標値に到達しているものもある。これらについては、市の目標値のみにとらわれず、本校の教育活動を見直す視点として活用していきたい。
- ・一方、現時点で市の目標値に達していない項目もいくつかある。その中でも、特に「平日の学習時間」は目標値との隔たりが大きい。本校では、独自の家庭学習の取組を行い、学習内容の質の向上を図っているところだが、その指導と関連させる中で目標値（学習時間）の増加が図られるように取り組んでいきたい。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）								
I 学校教育目標に関して・学校経営について（教職員用アンケートから）								
達成状況	・全7項目のうち6項目で肯定的な回答が100%である。 ・このなかで、「職場の福利厚生・健康管理への配慮」については、肯定的な回答が市全体と比べて5.4ポイント低い。また、前年度同期と比べて5.3ポイント低い。							
	番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
	7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。 (平均値:今回:3.3、H26 前期:3.4)	本校	48.0	36.0	16.0	0.0	84.0
			市	48.8	40.6	8.1	2.5	89.4
H26 前期			57.1	32.1	7.1	3.6	89.3	
改善策	・管理職が、日常的に、教職員の様子を丁寧に観察するとともに声かけを行い、一人一人の勤務状況や抱えている課題・悩み等について把握し、適切な助言を行う。また、必要に応じて面談等を行い、ストレス等が過度に蓄積しないように配慮する。 ・管理職が、校務分掌等の偏りにより特定の教職員に負担がかかっているか、学校が組織として機能的に運営されているかについて、年間を通してチェックし、必要に応じて校務分掌の見直しを図っていく。 ・管理職が、教務主任や各学年主任との連携を密にし、体調がすぐれない教職員がいた場合は授業変更等を迅速に行い、休暇を取得しやすい体制づくりや職場の雰囲気醸成していく。 ・月に一度、定時退勤日を設け、実行していく。							
II 学校運営について								
達成状況	・全項目で肯定的な回答が90%を超えた水準にある。 ・このなかで、「職員会議への積極的な関わり」については、肯定的な回答が市全体と比べて9.8ポイント高い。 ・また、「学校施設の定期点検と処理・報告」については、肯定的な回答が市全体と比べて5.8ポイント低い。							
	番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
	1	あなたは、校舎内外の施設点検を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。 (平均値:今回 3.5、H26 前期 3.4)	本校	57.7	34.6	7.7	0.0	92.3
			市	62.5	35.6	1.3	0.6	98.1
H26 前期			42.9	53.6	3.6	0.0	96.4	
改善策	・学校施設の定期点検を学校として実施するとともに、職員会議等を利用し、各教職員がそれぞれの管理場所について日常的に責任をもって観察・点検を行うよう、安全に対する意識の向上を図る。 ・修繕や整備が必要な箇所については、管理職が、迅速に教育委員会への報告、業者への連絡を行い、安全な学習環境づくりを進める。							

Ⅲ 学習指導について（生徒用アンケートも含めて）

- ・ほとんどの項目で肯定的な回答が90%を超えた水準にある。
- ・特に、「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくり」、「基礎・基本の定着を図る授業」、「評価規準と評価方法を明確にした授業」については、100%である。
- ・一方、「個に配慮した授業」、「教材教具等を活用した授業」については80%を下回っている。この2項目は、市全体と比べて12.5ポイント、11.1ポイント低い。また、前年度同期と比べても17.5ポイント、13.2ポイント低い。このことは、さまざまな特性をもつ生徒に対してどのような支援を行い、個に応じた適切な学習方法を提示していくかについてより強い課題意識をもつ教職員が増えてきたことの表れであると言える。こうした課題を改善していくためにも、教材教具等を活用するなど創意工夫をした授業を作っていく必要がある。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。 (平均値: 今回 3.2、H26 前期 3.3)	本校	39.1	39.1	21.7	0.0	78.2
		市	46.4	44.3	9.3	0.0	90.7
		H26 前期	39.1	56.5	4.3	0.0	95.7

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。 (平均値: 今回 3.0、H26 前期 3.4)	本校	27.3	50.0	22.7	0.0	77.3
		市	46.4	42.0	11.6	0.0	88.4
		H26 前期	47.6	42.9	9.5	0.0	90.5

達成状況

- ・「学校が楽しい」と感じる生徒の肯定的な回答は94.8%、「学校の授業が楽しい」の割合は90.0%であり、いずれも高い水準にある。また、前年度に比べて、それぞれ3.9ポイント、6.0ポイント高くなっている。A率にだけに限ると、それぞれ10ポイント、12.9ポイントと割合の増加が極めて顕著である。このことから、本校の生徒の学校生活や授業への満足度は高くなっていることがわかる。本校の教職員の日常における授業や学校行事等、さまざまな取り組みの成果であると言える。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	学校が楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	60.9	33.9	3.9	1.3	94.8
		市	54.6	36.5	6.6	2.2	91.1
		1年	73.0	23.0	4.1	0.0	96.0
		2年	52.6	41.0	3.8	2.6	93.6
		3年	57.5	37.5	3.8	1.3	95.0
		H26 前期	52.9	38.0	7.8	1.2	90.9

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	40.4	49.6	7.4	2.6	90.0
		市	29.0	53.0	14.1	3.9	82.0
		1年	54.8	39.7	5.5	0.0	94.5
		2年	26.9	57.7	10.3	5.1	84.6
		3年	41.0	50.0	6.4	2.6	91.0
		H26 前期	27.5	56.5	13.3	2.7	84.0

</

Ⅳ 生徒指導について（教職員用アンケート、生徒用アンケートから）

達成状況

・全項目で肯定的な回答が 90%を超えている。

・特に「児童生徒理解のためのコミュニケーション」、「児童生徒の規範意識に関する指導」、「保護者・地域・関係機関との連携」については 100%である。

・「問題行動、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応」については 91.7%である。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。 (平均値:今回 3.4、H26 前期 3.3)	本校	45.8	45.8	8.3	0.0	91.7
		市	46.1	50.0	3.9	0.0	96.1
		H26 前期	34.6	57.7	7.7	0.0	92.3

改善策

・学校が生徒にとって居場所があり安心して生活できる場であるためには、いじめはあってはならない。また、発生した際は迅速かつ適切に対応しなければならない。そうした点から、いじめを含めた問題行動の未然防止、早期発見・早期対応をさらに図っていくために、学校組織として、生徒指導部会、生徒理解部会等の機能の充実を図る。また、職員会議等を活用し、学校全体で組織として取り組んでいく意識を高めると同時に、「報告・連絡・相談・確認」の徹底を図っていく。

Ⅴ 地域との連携について

達成状況

・ほとんどの項目で肯定的な回答が 90%を超えている。

・特に、「保護者の P T A 活動への協力」、「地域・保護者の児童生徒の安全確保」、「保護者の学習指導や生活指導への協力」、「小中連携を生かした教育活動」については、100%である。また、これらの項目は、前年度と比べても大きくポイントが上がっている。

・一方、「地域人材や施設を活用した教育活動」は 58.4%で、市全体と比べると 17.4ポイント、「保護者や地域の学校への要望を聞くなど情報収集の機会」は 75.0%で、市全体を比べて 11.6ポイント、前年度と比べて 9.0ポイント低くなっている。

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 (平均値:今回 2.5、H26 前期 2.7)	本校	4.2	54.2	25.0	16.7	58.4
		市	15.4	60.4	17.4	6.7	75.8
		H26 前期	12.5	50.0	29.2	8.3	62.5
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。 (平均値:今回 2.8、H26 前期 3.0)	本校	8.3	66.7	25.0	0.0	75.0
		市	23.3	63.3	12.0	1.3	86.6
		H26 前期	24.0	60.0	8.0	8.0	84.0

改善策

・地域人材の把握を行い、本校における教育活動との関連の中で地域人材が活用できる場面がないかを検討、活用していくとともに、次年度に向けて、地域人材を活用した授業、学校行事等の計画を進める。すでに実施している活動については、教職員間で共通理解を図り、担当教職員だけでなく他の職員も関わりがもてるようにしていく。

・年 5 回の学校委員会、年 2 回の学校評価委員会を活用し、保護者や地域の学校に対する願いや要望を聞く機会の充実を図る。また、職員会議等を通して、本校が地域にある学校として、地域の方と協働しながら、子ども達を育成していく意識を教職員一人一人が高めていく。

VI 学校の特色に関して（職員用アンケートから）	
達成状況	・全項目で肯定的な回答が96%を超えている。
改善策	・本校の特色として、教職員全体で取り組みをさらに推進していけるように、意識をさらに高めていく。また、取り組みの質を高められるように、PDCAサイクルを活用していく。 ・6「発表活動に主体的に取り組むような指導」については、日常的な授業の発言や発表、集会活動や学園祭文化・体育部門等における自己表現や発表の機会をとらえ、適切に指導していく。
3 まとめ	
〈成 果〉 ・教職員による自己評価アンケートでは、全項目に高い意識を持って教育活動に努めている様子がうかがえる。 ・生徒アンケートでは、本校の生徒の実態を把握でき、改善策の方向性を考えることができた。 〈課 題〉 ・年度を追って少しずつ成果が見られる項目がある一方で、改善を図る必要のある項目については、ここ数年継続して課題となっているものもある。管理職だけでなく、教職員全員で課題を共有し知恵を出し合って改善策を考えるとともに、実施にあたっては、学校全体で合意形成を行い、チームとして取り組んでいく。また、即時に結果が出なくても継続して粘り強く取り組みを進めたい。 ・1学期の教育活動における多くの成果と課題を全教職員で共有し、2学期以降の学校生活全体の向上につながるように、PDCAサイクルを有効的に生かしていきたい。	